

虐待事件を「孤立」の視点で見る

星の会（不登校を考える親の会）代表
教育・不登校研究所「明日が見える」所長

加嶋文哉

■事件は特別ではない

千葉県野田市の小学4年生の栗原心愛（みあ）ちゃんが、自宅で亡くなりました。痛ましい事実が明るみに出ています。

父親の裕一郎容疑者が虐待をし、母親のなぎさ容疑者は心愛さんを守ることができませんでした。虐待はあってはならないし、学校や児童相談所の対応が問題であることは言うまでもありませんが、この痛ましい事件の本質はそこではないと思います。一部の専門家や識者は、児童相談所の人員不足を指摘します。関係機関の連携強化や情報共有、人員を増やすことの必要性を言いますが、はたしてそれで問題は解決の方向に向かうのでしょうか。

この事件の報道を目にして、ここでも親が孤立してしまうことで、どうにもなくなる状況に追い込まれていく「社会の貧困」を感じないではいられません。心愛ちゃんの母親がおいこまれていったように、不登校やひきこもりでも、同じようなことが起こっていると思います。

■周りのまなざしが孤立に追いこむ

子どもが不登校やひきこもりになると、多くの場合、母親が責められます。

「親の育て方に問題ある」

「親があまいから、子どもが学校に行かない」

「朝起きないことを親が簡単に許している」

「親が、学校を否定し、行かないことを認めている」

「親がゲームの制限をしないから、昼夜逆転の生活をする」

子育てのだめ出しをされ、親としての責任を果たすように責められ、結果的に孤立する状況に追い込まれてしまいます。

母親は「私がおもちゃとしないといけない」と、周りのまなざしに縛られていきます。しかし、どんなに頑張っても、その努力を認めてねぎらってくれることはありません。それどころか、周りからは、あれもした方が良くこれもした方が良くと言われ、押しつけの助言は増える一方です。父親（夫）と一緒にあって責めるならば、ますます母親は追いつめられていきます。

「子どもを学校に行かせることができない自分は、母親失格なのではないか」「苦しんでいる子どもを救うのが親の責任ではないのか」「子どもの人生がかかっている時に、仕事なんかしている場合か」と自分を追い込み、やりがいのある仕事を「辞めた方が良いのでは？」と、考えるのはめずらしくありません。

「どうすれば、子どもが学校に行くようになるか」「どうすれば、子どもが働くように

なるか」どうすれば…、どうすれば…。そのことが24時間頭から離れません。

「しばらく様子を見ましょう」「お母さんが、ゆっくりして下さい」と言ってくれる人もいますが、「早くどうにかしなくては取り返しのつかないことになる」と不安で一杯の人には、その助言は重荷にしかなりません。子どもと一緒に生活をしている親は、様子を見ることやゆっくりすることなど、まずできません。

■共感というつながりを支えにして

星の会の例会では、上手くいかなかったエピソードを話すようにしています。周りの理解が得られず孤立して苦しかった思いを分かち合うようにしています。「この子さえいなければ」「親を続ける自信がない」などの陰性感情（怒り、憎しみ、嫌悪感）を言葉にして受けとめ合うようにしています。分かってもらえた実感や安心感は、明日を生きる力につながることを、経験上よく知っているからです。

最初は険しい表情をしていたAさんが、例会で話をしたり聴いたりしているうちに、別人のような穏やかな顔つきになりました。「例会で皆さんのお話を聴いているうちに、自分が不安だったから子どもを変えようと焦っていたことがわかりました。『子どものため』と思ってしていたことが、実は『自分のため』にしているだけであったのがわかりました。」と教えてくれました。

Bさんは「ここ（例会）に来て、私の気持ちを分かってもらえてとっても嬉しかった

です。もしかしたら、部屋から出てこないあの子ども誰かに分かってもらいたいのではないかと気づきました。」と、子どもに自分と同じ思いがあることを見つけた話をしてくれました。

Cさんは「ひきこもりは心配ですが、そのおかげでささやかな幸せを一緒によろこぶようになりました。子どもとケンカもできるようになりました。でも、この先は不安なんですよ、やっぱり。」と笑顔で語ってくれました。

「共感」というつながりを支えにして、見失っていた「自分らしい親」の姿に近づいているのだと思います。

■微力であるが無力ではない

「不登校を考える親の会」は、素人が思いを語り合うささやかな団体です。強い絆で結ばれているわけではありません。ポストイットのようなゆるやかで優しいつながりですが、親同士があたかく支え合う力になっています。その力は小さくて微力ですが、無力ではありません。孤立という「社会の貧困」を変え、自分らしく生きて良い社会づくりを築く役割を果たしていると思います。

星の会が「大分県人権尊重社会づくり推進功労賞」を受賞

今回の受賞は、星の会だけでなく多くの「親の会」の活動を行政が評価し認めてくれたものだと思います。世話人、会員、支援者の皆さん、おめでとうございます！

おねがい

原稿をお寄せ下さい

- 感想・体験 ●伝えたい情報
 - その他不登校に関すること
- <メール>toiawase@hoshinokai.net
<FAX> 097-576-9489

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・インシヤルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

ご寄付・寄贈のお願い

活動を継続・発展させていくために寄付や切手・書き損じハガキ等の寄贈をお願いしています。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

<口座記号番号> 01710-8-142651
<加入者名> 不登校を考える星の会

4月の例会予定

- 昼の大分例会…講演会になります
- 別府例会…4月6日(土)19:00~21:30
- 豊後大野例会…4月11日(木)19:00~21:30
- 津久見例会…4月12日(金)19:30~22:00
- 夜の大分例会…4月19日(金)19:00~21:30
- 湯布院例会…4月25日(木)19:30~21:30

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまでご連絡ください。

会報発送作業

- 日時：3月28日(木)14:00~
- 場所：明治野野公民館
- お尋ねは河野さん
(080-5272-9360)まで